

ことが好ましい。

おわりに

話題提供、質疑応答と込み入った内容であったので、同一人がすべての部分を扱った様に記載したが、特に、回答部分は、専門委員、植調

事務局からのものが多い。その旨記載はしなかったが、ご了承願いたい。

今後も、試験に要した担当者の努力と労力が無駄にならないよう、この様な意見交換の場を設けることが必要ではないかと考えるところである。

(雑草こぼれ話)

ーオオバコは山の道案内ー

人がよく踏みつける道やグラウンド、公園などで、他の草が生えていないのに、オオバコだけが群生しているのをよく見かけることがある。このように人が踏みつける固い土に生育する植物を「踏みあと群落」と言っているが、オオバコはその代表格で、固い土でも平気で生育する特異な性質を持っている。

オオバコはもともとは人里植物で、山野には無かった筈である。ところが今ではかなり標高の高い山の中でも普通に見られるようになった。山の獣道のような人がたまにしか歩かないような細い道でも、オオバコが旺盛に生えているのをよく見かける。

オオバコの種は濡れると粘る性質があって、これが人の靴の裏にへばりついて、人が歩くことによって広がって行く訳である。逆に言うと、オオバコの生えている所は、人が歩いたことがある証しでもある。

昔、山で道に迷った人が、オオバコの生えている場所を探し歩いて、遂に道を探り当て、九死に一生を得たと言う話がある。

オオバコは山の道案内である。(S)



山道で道なりに生えているオオバコ



自然公園の休憩所のベンチ近くに、群落をつくるオオバコ